

富山国際大学 第4期アクションプラン（2026～2028年度（3か年））

項目	No.	目標	行動	担当部局	担当部署	年度別行動		
						2026（令和8）年度	2027（令和9）年度	2028（令和10）年度
						計画	計画	計画
学修支援	1	教育理念・目標の達成を目指す時代に即した教育課程（カリキュラム）設定	・教育課程（カリキュラム）の策定・検証・改善	教育研究部	学部・総合学務センター	・カリキュラムを有効に実施するための詳細についての検討 ・キャップ制、履修モデル、シラバスにおける提示（CP, DP, キーコンピテンシー、前提となる知識等）	・現代社会学部新カリキュラム運用開始 ・子ども育成学部カリキュラム検証	・カリキュラム検証、課題等確認、改善
			・連携開設科目の充実		総合学務センター	・オンデマンド科目で実施可能な科目の検討（教養科目） ・効果的なオンデマンド教育実施に向けた教材作成の手引きの作成	・連携開設科目4科目開講、うちオンデマンド科目を2科目開講	・連携開設科目6科目開講、うちオンデマンド科目を4科目開講
			・学生のITと数理・データサイエンス・AI活用スキル向上		総合学務センター	・卒業時のMDASH応用基礎教育修了率目標35%	・卒業時のMDASH応用基礎教育修了率目標37%	・卒業時のMDASH応用基礎教育修了率目標39%
	2	教職・学生協働による授業の活性化及び教育効果の更なる向上	・教職・学生協働FD研修の実施による授業内容の改善	教育研究部	総合学務センター	・FD研修で取り上げる必要性の高いテーマ整理・検討・FD実施	・継続して研修で取り上げる必要性の高いテーマについて、FD研修を実施	・継続して研修で取り上げる必要性の高いテーマについて、FD研修を実施
	3	学修成果の可視化による教育効果の更なる向上	・学修成果の全体像の共有	教育研究部	総合学務センター	（学修の仕組み） ・卒業までに学生に身につけてほしい能力について再確認し、必要に応じて修正 ・学修成果の評価方法の全体像を整理	・修正した仕組みの実践	・前年度の実践の評価
			・従来の評価方法の妥当性・信頼性・公平性の検証		総合学務センター	（客観的評価の仕組み） ・従来の成績評価方法の妥当性、信頼性、公平性の検証 ・現行のレポートルーブリック、卒業論文ルーブリックの検証、課題抽出 ・2025年度実施の全国学生調査の結果より、本学の強み・課題を把握	・必要に応じてルーブリックを改訂、追加 ・2025、2026年度実施の全国学生調査の結果より、学部ごとに強化が必要な領域を特定、情報を共有	・引き続き必要に応じてルーブリックを改訂、追加 ・前年度特定した強化が必要な領域について、関連する授業科目の内容等を見直すことなどにより改善
			・ポートフォリオの活用による学生の成長の可視化 ・DP達成度、自己評価シート、能力評価特性テストのデータの活用、学生が成長を実感できる仕組みへの適用		総合学務センター	（学生が成長を実感できる仕組み） ・ポートフォリオを活用することにより、学生が在学中に修得したことを可視化（学業、課外活動、資格等）をわかりやすく確認できることを検討（DP達成度、自己評価シート、能力評価特性テストのデータの活用を含む） ・大学における学びの可視化によって学修成果を実感できる仕組みを検討 ・年1回以上、教員と学生の面談を実施し、学修成果を確認	・ポートフォリオを活用することにより、学生が在学中に修得したことを可視化（学業、課外活動、資格等）し、学生にわかりやすく提示 ・授業科目（単一または複数）の履修によって身につく力を、複数の観点から具体的に整理 ・年1回以上、教員と学生の面談を実施し、学修成果を確認	・学修成果を実感できる仕組みを検証し、修正 ・年1回以上、教員と学生の面談を実施し、学修成果を確認
	4	学修成果・教育成果を高めるためのデータ分析と授業・学修行動改善への活用	・教学IRシステムの構築 ・データの収集・分析（アセスメント・ポリシーの各評価指標等） ・システムとデータの有効性評価 ・授業・学修行動改善施策の策定 ・公平な成績評価の運用	戦略企画部	IRセンター	・「学習成果の評価の方針のPDCAサイクル」で指定されている分析の参考となる国内先進事例を調査するとともに、分析に必要なデータの収集および分析を実施する。	・「学習成果の評価の方針のPDCAサイクル」で指定されている分析の参考となる国内先進事例を調査するとともに、分析に必要なデータの収集および分析を実施する。	・「学習成果の評価の方針のPDCAサイクル」で指定されている分析の参考となる国内先進事例を調査するとともに、分析に必要なデータの収集および分析を実施する。

富山国際大学 第4期アクションプラン（2026～2028年度（3か年））

項目	No.	目標	行動	担当部局	担当部署	年度別行動		
						2026（令和8）年度	2027（令和9）年度	2028（令和10）年度
						計画	計画	計画
学生生活支援	5	両学部との交流促進、他大学の学生との交流促進による多様な価値観・イノベーションの創出	・両学部の合同授業の実施、交流の促進	教育研究部	総合学務センター	・両学部授業単位またはゼミ単位でのマッチング実施（合同授業を1回以上実施できる可能性を検討） ・対面での両学部合同授業を1回以上実施 ・両学部の大学祭等での交流の可能性検討（課題抽出）	・対面での両学部合同授業を2回以上実施 ・両学部の大学祭等での交流の可能性検討（合同イベント）	・対面での両学部合同授業を2回以上実施 ・両学部の大学祭等での交流の可能性検討（合同イベントの継続）
			・オフキャンパス交流会への参加（一社 学修評価・教育開発協議会）		総合学務センター	・公募要領の早期提示等募集体制整備 ・学生に積極的な参加を促す（1グループ、2名を派遣）	・地域活動を実施している学生に積極的な参加を促す（1グループ、2名を派遣）	・地域活動を実施している学生に積極的な参加を促す（1グループ、2名を派遣）
	6	環境の変化に対応できる社会的に自立した学生の育成	・学生を取り巻く環境の変化に応じた普及啓発活動	教育研究部	総合学務センター学務課（学生支援）	・大学生活におけるトラブル防止のために必要な普及啓発活動を合同授業やオリエンテーションで実施（消費生活トラブル、闇バイト、薬物乱用、事故などの防止）。	・必要な普及啓発活動を実施（オリエンテーション、合同授業等）	・引き続き、必要な普及啓発活動を実施（オリエンテーション、合同授業等）
	7	多様な学生への適切な支援	・配慮を要する学生への適切な対応	教育研究部	学務課（学生支援）	・支援体制の運用定着 ・関係部署との連携強化 ・教職員への支援制度周知	・学生相談体制の充実 ・学内連携による継続支援	・支援内容および運用ルールの検証 ・教職員理解の継続促進
	8	学生・教職員の健康維持・増進	・健康への関心の向上および生活改善に関する講座の企画・実施	運営管理部	健康管理センター	・健康への関心を高める講座の企画・実施（年間1回以上）	・生活改善の実践と継続を支える講座の企画・実施（年間1回以上）	・健康への関心と生活改善の定着を図る講座の企画・実施（年間1回以上）
			・健康管理センター支援体制の整備と利用促進		健康管理センター	・健康管理センター支援体制の周知および利用促進（説明・広報の実施）	・関係部署との連携・情報共有の推進による支援体制の機能強化と利用促進（連携会議：年間1回以上）	・健康管理センター支援体制の学内定着および継続的利用の促進（継続相談割合の向上）
キャリア支援	9	地域を支える人材育成としての役割・存在感の一層の向上	・環境変化や学生ニーズに応じた就職支援	教育研究部	キャリア支援センター	・要支援学生対応策の拡充。 ・子ども育成学部的一般企業希望者支援強化。	・政府・業界団体の制度見直し、景気動向の採用計画への影響に関する状況把握と対応策の検討	・政府・業界団体の制度見直し、景気動向の採用計画への影響に関する状況把握と対応策の実施。
			・キャリア支援の持続可能性の向上		キャリア支援センター	・マニュアル整備によるノウハウ蓄積や、県との連携等による業務効率化。 ・他部署と連携した企業向け広報強化。	・企業・進路データベースの構築。	・企業・進路データベースの広報等への活用。
国際交流・地域交流	10	国際社会や地域の国際化の発展に貢献できる人間の育成	・本学学生の海外体験比率増加や国内での留学生との交流の計画策定、実施	教育研究部	国際交流センター	・長期留学、短期留学、異文化研修、専攻実習Ⅲ等、派遣学生数の前年度比10%増	・長期留学、短期留学、異文化研修、専攻実習Ⅲ等、派遣学生数の前年度比10%増	・長期留学、短期留学、異文化研修、専攻実習Ⅲ等、派遣学生数の前年度比10%増
					国際交流センター	・留学生と日本人学生との交流会を年2回実施	・留学生と日本人学生との交流会を年2回実施	・留学生と日本人学生との交流会を年2回実施
	11	地域貢献及び地域連携活動を通じた学生の課題発見・解決能力の向上	・自治体等との連携や地域での活動による教育・研究の実践	教育研究部	地域交流センター	・地域等連携実績の収集方法の検討	・地域等連携実績の収集・分析	・地域等連携実績の検証
					地域交流センター	・学生への地域活動・ボランティア活動の啓発、支援の拡大	・活動実績の検証	・前年度の検証と拡大

富山国際大学 第4期アクションプラン（2026～2028年度（3か年））

項目	No.	目標	行動	担当部局	担当部署	年度別行動		
						2026（令和8）年度	2027（令和9）年度	2028（令和10）年度
						計画	計画	計画
広報	12	戦略的な知名度向上と外部資金の獲得	・ブランディング広報 ・外部資金（寄付金等）獲得	戦略企画部	広報センター 戦略企画室	・学内FD研修による意識改革 ・寄付金 10件	・地域対象広報の強化 ・寄付金 20件	・地域対象広報の効果、分析、強化 ・寄付金 30件
学生募集・入学者受入	13	大学の魅力の再発見とその向上	・オープンキャンパスや進学説明会の参加者数増加を図るとともに、本学で何を学べ、どんな進路を目指すかを強調した広報戦略を立て、実行。	教育研究部	入試センター 学務課（入試担当）	・実質資金の目減りを踏まえ、県外進学が難しい高校生やその保護者をメインターゲットとして、県内進学の優位性を強調した広報を展開し、オープンキャンパス等に誘導。 ・特に高校生に対しては、SNS広告等を主体とした小まめな情報発信を図り、学べる内容の見える化を促進する。	・「何を学べるか」「どんな進路を目指すか」の内容の可視化を加速化させ、本学の魅力を最大限アピールすることに注力。 ・県内に向けては県内進学への優位性を強調した広報を継続。 ・県外に向けては、SNS等での発信により本学の認知度を上げ、志願者増につなげる。	・引き続き、県内に向けては県内進学へのメリットを、県外に向けては「何を学べるか」「どんな進路を目指すか」を積極的に広報。 ・上記の取り組みの成果を検証し、その結果に基づいて、次のアクションプランに向けた改善策を立てる。
	14	永続的な入学定員の確保	・富山県内の18歳人口減少も踏まえ、県内志願者を重視しつつも、県外からの志願者増を促す戦略を立てて実行。	教育研究部	入試センター 学務課（入試担当）	・県内・県外推薦指定校の出願基準（評定平均値）の見直し、検討。 ・付属高校との連携の成果を検証し、次年度以降の私立高校向け募集活動の戦略を検討。	・志願者の高校における評定平均値や、入学生の成績などを分析し、学力担保が可能な着地点を検証したうえで、選抜試験の内容等を検討。 ・付属高校との連携を参考に、県内私立高校への募集活動を強化。要望に応じて高校出身学生の説明会等への参加も検討。	・さまざまな検証を踏まえ、県内の県立高校、私立高校及び県外高校からの志願者数について、それぞれ具体的な目標を設定することで、入学定員の安定的な確保を目指す。
スマートキャンパス	15	図書館の機能整備による学修支援と研究支援の強化	・滞在型図書館、教育・学習環境の整備	教育研究部	図書館	・図書館利用促進に向けた企画の実施①（選書企画など）、学生生活アンケートによる図書館利用に関する動向の分析、富山短大図書館との情報共有や共同事業の実施。	・図書館利用促進に向けた企画の実施②（研究紹介など）、学生生活アンケートに基づく館内環境の刷新、富山短大図書館との情報共有や共同事業の実施。	・図書館利用促進に向けた企画の実施③（著名作家フェアなど）、学生生活アンケートに基づく館内環境の整備、富山短大図書館との情報共有や共同事業の実施。
			・情報ネットワーク拠点としての機能強化（機関リポジトリの構築、産学官連携による地域への情報発信等）			・情報ネットワークの整備（機関リポジトリの構築、産学官連携による地域への情報発信）	・情報ネットワーク強化策の検討	・情報ネットワーク強化策の実施
	16	高度なスマートキャンパスづくり	・快適なネットワーク環境の維持 ・サイバー攻撃に耐えうる環境整備 ・情報セキュリティ事故を未然に防ぐための対策 ・IT利活用の高度化	戦略企画部	情報センター	・老朽化した無線APの更新	・無線APも含めたネットワーク環境の更新	・無線APも含めたネットワーク環境の更新
					情報センター	・ネットワークの脆弱性診断の実施	・ネットワークの脆弱性診断の実施	・ネットワークの脆弱性診断の実施
情報センター					・教職員スキル向上のための訓練と研修	・教職員スキル向上のための訓練と研修	・教職員スキル向上のための訓練と研修	
情報センター	・kintoneを用いたワークフローシステムの安定運用				・kintoneを用いたワークフローシステムの安定運用	・kintoneを用いたワークフローシステムの安定運用		
17	SDGsに配慮した自然と人工が調和する美しいキャンパスづくり	・東黒牧キャンパスの森づくり活動	教育研究部	学部・学生支援	・東黒牧キャンパスで、地域NPOや企業と連携した森づくり活動を1回以上実施。	・東黒牧キャンパスで、地域NPOや企業と連携した森づくり活動を1回以上実施。	・東黒牧キャンパスで、地域NPOや企業と連携した森づくり活動を1回以上実施。	

富山国際大学 第4期アクションプラン（2026～2028年度（3か年））

項目	No.	目標	行動	担当部局	担当部署	年度別行動		
						2026（令和8）年度	2027（令和9）年度	2028（令和10）年度
						計画	計画	計画
法令改正・遵守対応	18	大学運営に関わる法律の制定・改廃への迅速な対応	・文部科学省等からの通知の対応・遵守	運営管理部	総務課	・ガバナンスコードの遵守	・ガバナンスコードの遵守	・ガバナンスコードの遵守
	19	法令遵守体制の強化	・ハラスメント防止に係る啓発活動 ・ハラスメントに対応する	運営管理部 教育研究部	総務課・学務課 総務課・学務課	・教員、学生へのハラスメント定義の周知と啓発 ・ハラスメント事例の収集と分析	・教員、学生へのハラスメント定義の周知と啓発 ・対応に必要なルールの明確化	・教員、学生へのハラスメント定義の周知と啓発 ・規程等の改正も含めた整備
就労環境・職能開発	20	ダイバーシティ推進	・ダイバーシティ（多様性）とインクルージョン（包摂・受容）の啓発	運営管理部	総務課 ほか	・事例紹介による啓発	・FDSD研修による啓発	・FDSD研修による啓発
	21	研究の促進と教育改善	・教員の研究時間の確保を考慮した時間割調整	教育研究部 学部	総合学務センター・学部	・研究促進に向けた課題を抽出し、改善方策を検討 ・全教員が週1日、研究や教育改善のために時間を使えるよう配慮した時間割作成を検討	・抽出した課題のうち、改善可能な事項について1件以上の改善を実施 ・全教員が週1日（午前午後連続）、研究や教育改善のために時間を使えるよう配慮した時間割作成を検討	・前年度の継続
				運営管理部	総務課	・教員の裁量労働制導入に係る課題再検討	・教員の裁量労働制導入	—
	22	職員の働き方改革の更なる推進	・事務職員の時間外勤務削減 ・有給休暇の取得促進	事務部	総務課 ほか	・業務調査による可視化と削減 ・生成AIの活用例の情報収集と活用	・業務マニュアル作成・更新その1 ・生成AIの活用例の情報収集と活用	・業務マニュアル作成・更新その2 ・生成AIの活用例の情報収集と活用
				事務部	総務課 ほか	・有給休暇6日以上の取得率70%かつ7日以上の取得率50%	・有給休暇6日以上の取得率80%かつ7日以上の取得率60%	・有給休暇6日以上の取得率100%かつ7日以上の取得率80%
				教育研究部	学務課教務担当	・有給休暇を取得しやすい学年暦の検討	・有休休暇を取得しやすい学年暦の検討・実行	・有休休暇を取得しやすい学年暦の検討・実行・定着
	23	事務職員の専門性の向上と教職協働意識の定着	・研修参加	運営管理部	総務課 ほか	・研修補助制度の検討 ・一人一研修参加の実施、目標30%	・一人一研修参加の実施、目標50%	・一人一研修参加の実施、目標70%